ケニア共和国キスム郡におけるオリセットネット配布に係る報告

配 布 日：2023 年 5 月 25 日、26 日
配布地域：ケニア共和国キスム郡コゴニ準区
配布会場：エアポートヘルスセンター
配布枚数：944 枚
裨 益 者：脆弱性の高い地域住民（貧困層の住民、障碍者、高齢者など）、および、乳幼児を持つ女性住民
オリセットネット提供者：公益社団法人日本民間協力会、葉山ロータリークラブ
配布実施：特定非営利活動法人 STAND ALIVE
現地協力：Airport Community Health Unit, Kogony Community Health Unit
Bandani Community Health Unit, Usoma Community Health Unit

＜概要＞

2023 年 5 月 25 日および 26 日、ケニア共和国キスム郡（Kisumu County）にあるコゴニ準区（Kogony Sub-Location）においてオリセットネットの配布が行われた。配布されたオリセットネットの総数は 944 枚となり、配布対象は主に、貧困層や障碍者、高齢者といった脆弱性の高い地域住民と、5 歳未満の乳幼児を持つ女性住民であった。

オリセットネットは、葉山ロータリークラブおよび公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）により提供されたものである。配布の調整および実施については、現地で母子保健講習会（Mother to Mother Support Session）を推進する特定非営利活動法人 STAND ALIVE であり、コゴニ準区で活動する 4 つの地域保健ボランティアのグループ（Community Health Unit）がその協力に当たった。

なお、用意されたオリセットネットは 1,000 枚であり、残りの 56 枚については、今後、母子保健講習会に参加している女性住民を対象に配布される予定である。また、定期的にオリセットネットを配布された裨益者宅を訪問するなどして、オリセットネットの使用状況の確認や、必要に応じて、マラリア対策のアドバイスなども実施していく計画となっている。

※オリセットネット配布の様子

＜背景＞

ケニアの西部に位置するキスム郡は、世界的にも母子死亡率の高い地域として知られている。その背景としては、コレラ、腸チフスといった水系感染症や下痢症、HIV などの様々な病菌の蔓延が挙げられるが、中でもマラリアは子供の死亡率に大きな影響を与えている。

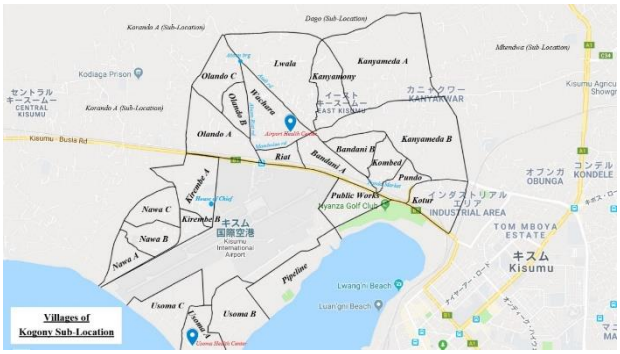
※キスム郡の母子死亡率（2019 年統計）
妊産婦死亡率：343 人（10 万人当たり）
乳幼児死亡率：39.1 人（1,000 人当たり）
幼児死亡率　：63.1 人（1,000 人当たり）

ヴィクトリア湖に面しているという位置的条件と、亜熱帯という気候条件により、キスムでは蚊が非常に多く繁殖し、そのため、マラリア感染率も非常に高く 19%を上回る（ケニア全体 6%）。マラリアは、キスムにおける 5 歳未満の死亡原因のうち 33%以上と、最も大きな割合を占める病気である。

日本の NGO である STAND ALIVE は、2022 年 3 月よりキスム郡の母子死亡率を下げるための活動を行っており、女性と子供の健康を守るという観点から、今回、高い母子死亡率の大きな要因となるマラリアの蔓延状況を改善するためのオリセットネットの配布を実施することとなった。

＜STAND ALIVE の母子保健活動＞
ヴィクトリア湖の畔にあるコゴニ準区はキスム郡の中でも、貧困率が高く、同時に、母子死亡率も高いとされる地域である。STAND ALIVE は、2022 年 3 月より、このコゴニ準区において、母子死亡率を改善するための事業を行ってきた。

家庭内で虐げられがちな地域の女性住民の心のケアを目的として精神保健事業（2023 年 5 月～）や、10 代の妊娠を抑制するための若年妊娠抑制事業（2023 年 8 月開始予定）などを行う中で、根幹となるのは地域住民に対して母子保健知識の啓発を行う母子保健講習会講習会事業（2022 年 3 月～）である。



※コゴニ地区の地図と地域住宅地の写真

母子保健講習会とは、地域保健ボランティアと呼ばれる住民有志約 20 名が講師となり、コゴニ準区内の各自の担当地域で 10 名前後の住民参加者を集め、母子保健知識啓発のための講義を行う活動である。もともとは、当時、日本国際民間協力会（NICCO）にいた STAND ALIVE の理事らが 2020 年 3 月に開始させたもので、新型コロナの影響などにより中断されていた半年ほどの期間を除き、講習会は約 17 カ所の地域で毎週行われ、NICCO 事業終了（2022 年 2 月）までの 1 年半ほどの間に、開催数は 1,166 回、累計参加者数は 11,876 人に上った。その後、当該活動は STAND ALIVE の発足と同時に同団体が引継ぎ、今現在も継続されている。令和 4 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）においては、18 カ所地域において計 786 回の講習会が開催され、参加者数は累計で 7,652 人となった。

講師となる地域保健ボランティアには、事前に 200 時間の母子保健知識に関する授業が施されている。また、参加者は主に出産年齢（15 歳～48 歳）の女性であり、5 歳未満の子供を持つ親が大半である。

※母子保健講習会の様子

＜オリセットネット＞

オリセットネットには、ポリエチレンにピレスロイドという防虫剤を練りこみ、薬剤を徐々に表面に染み出させる技術「コントロール・リリース」という技術が使われている。もともとは工場の虫除けの網戸として使われていた技術だが、これをマラリアに苦しむ人々のために役立てられないかと考えた住友化学が、研究開発を積み重ねた結果、防虫剤処理蚊帳「オリセット®ネット」として開発。2001 年には世界保健機関（WHO）から世界で初めて長期残効型蚊帳としての効果が認められ、使用が推奨されている。現在、国連児童基金（UNICEF）などの国際機関を通じて、約 100 カ国の国々に供給されている。

また、WHO などが中心となりマラリア撲滅を目標に展開している「ロール・バック・マラリアキャンペーン」にも協力している。

特徴１：従来のポリエステル製蚊帳と違い、ポリエチレン製で、糸が太く、耐久性がある。

特徴２：蚊帳の糸に練りこんだ防虫剤が、洗濯等により表面の薬剤が落ちても中から徐々に染み出し（「コントロール・リリース」）、防虫効果が 3 年間持続する。

特徴３：暑いアフリカでも使いやすいよう、網目の形状を工夫し、風通しが良い

特徴４：経済的にマラリアを予防することができる。

以上